希望の丘

気仙沼市立九条小学校
校長室だより
令和５年５月２３日
NO.２
校長　白　倉　彩枝子

運動会で見えた 子供たちの「やり抜く力」

５月２０日，記念すべき「第６０回運動会」が，盛大に開催されました。
前夜まで雨は止まず，（２年連続延期になるのでは…）と少々心配しましたが，当日は，晴れ間も少し出て，数日前のような暑さもなく，絶好の運動会日和となりました。
今年度の運動会は，コロナ感染症が５類に移行したこともあり，様々な制限が緩和され，４年ぶりに，「玉入れ」や「綱引き」も復活しました。「やっぱり団体競技は盛り上がりますねえ。」と，来賓の皆さんも，熱い声援を送ってくださいました。
私は開会式で，子供たちに，運動会で二つの姿を期待するという話をしました。
一つは，最後まであきらめないで「やり抜く姿」です。
もう一つは，頑張る友達や下級生を「応援する姿」です。
運動会では，たくさんの「やり抜く姿」や「応援する姿」を見ることができました。

特に，徒競走では，多少のアクシデントはあったものの，１年生から６年生まで全員が，自分の足でしっかりとゴールしたことは，本当にすばらしいことだと思います。順位にこだわらず，それぞれの目標に向かって，走り切った子供たちの顔は輝いて見えました。そんな子供たちに，心の「金メダル」を贈りたいと思ったのは，私だけではないはずです。運動会という行事を通して育った「やり抜く力」は，これからの学校生活はもちろん，よりよい人生を拓く原動力となっていくことと思います。
ただ一つ残念だったのは，「よさこいソーラン２０２３」において，御家族や地域の皆さんの温かいアンコールに，お応えすることができなかったということです。
この一件には，理由があります。今年度の５・６年生の人数は，昨年度に比べて２０名近く減りましたが，子供たちは，練習段階から一生懸命取り組み，昨年度に勝るとも劣らない「よさこいソーラン」に仕上がっていきました。しかし，練習を重ねていく内に，
「もしアンコールがあったら，２回踊る体力的な自信がない」とか，
「アンコールのように，あるかないか分からない，見通しが持てないことが苦手。」とか，
アンコールに対しての不安や悩みを抱える子供が，少なからずいることが分かりました。
今まで，私たちは，アンコールは最大の称賛であり，応援であると思っていましたので，子供たちの不安や悩みを初めて知り，驚きと同時に，見直しが必要だと考えました。
そこで，今年度は，５・６年生８３名一人一人が，安心感を持って全力で踊れるように，「一意専心」「一球入魂」の思いで，１回の踊りに全力を注ぐことにしたのです。
本番では，御家族や地域の皆さんの応援もあり，気迫のこもった「よさこいソーラン」を踊り切ることができました。演技終了後のアンコールは，決して恒例だから行ったものではなく，心からの称賛であることが伝わっていたにも関わらず，お応えすることができなかったのは，このような経緯があったからです。「子供たちの踊りが，すばらしかったので，本当に残念…」という声は，私の耳にも届きました。今回の件は，学校の説明不足であり，応援してくださった御家族や地域の皆さんに，残念な気持ちを残してしまい，大変申し訳なく思います。今後は，情報発信や説明を丁寧に行いながら，子供たちの思いや願いを皆さんと共有していきたいと思いますので，保護者の皆さんには，これまで同様，御理解と御協力，そして温かい応援をどうぞよろしくお願いいたします。